**システムイノベーションのケーススタディ講座（第一回）**

■開催趣旨

　システムイノベーションセンターでは、これまで最適化やモデリングなどの様々な講座を行ってきました。システムを設計・構築・運用する上で、こうした技術を修得することが必須であることは言うまでもありません。しかし、システムは実学であり、理論だけではリアルなシステムを社会実装することはできません。現実のシステム構築にあたっては、技術的な課題を解決するだけでなく、ビジネスモデルの設計、システムを取り巻く利害関係者間の合意形成、社会的受容性の醸成など、持続可能なシステムを作り上げるために考慮すべき項目は多岐にわたります。こうした多様な課題を解決するスキルは、講義を受けるだけでは身につきません。

　一般に、知識の伝達・共有ではなく、実践的な問題解決能力を育て、協調性・探究心といった素質を伸ばすための教育アプローチとしてケーススタディが有効です。ケーススタディは、実際に起った出来事（ケース）を教材としてケースを疑似体験することで、現実の問題解決能力を身につけるもので、ビジネス、医療・看護や教育といった分野での適用がよく知られています。

　システムの分野も、ケーススタディが広く行われている上記分野と同様に、同じ状況でも人や組織によって対応方法が異なり、一つの解決策で画一的に課題を解決できるものではなく、ケーススタディが有効であると考えます。そこで、システムイノベーションセンターでは、実際にシステムイノベーションを起こした事例を教材としたケーススタディの講座を企画することといたしました。本講座では、これまでに社会実装されてきた様々なシステムを紐解き、受講生自らがそのイノベーションの現場を疑似体験することで、システム思考やイノベーションに必要なマインドセットを体得していただくことを目指します。

システムを考える上で、考慮すべき論点は多々ありますので、本講座はシリーズで実施し、各回ごとに中心となる論点を明示した上で、ご案内を差し上げる予定です。

第一回では、東日本旅客鉄道（JR東日本）の東京圏輸送管理システム（ATOS）を取り上げます。ATOSは、世界に類を見ない超過密複雑輸送を支えている日本が誇るシステムの一つです。

本ケースでは、主に、以下の論点に関して討議します。

 -　大規模・複雑システムの設計・運用論

 -　システムアーキテクチャ構成論

■対象者

　企業のデジタルトランスフォーメーションを担う中堅技術者・幹部候補、

システム開発のプロジェクトに参画していて、具体的な課題を抱える技術者

（本講習はディスカッションが基本です。積極的に自分の意見を発言し、講師と一緒に講義を作っていくという姿勢で参加いただくことが望まれます。）

■参加人数

　30名

■場所

　オンライン開催

■プログラム

　講師：貝原俊也　（神戸大学　教授）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時刻 | 内容 | 形式 | 備考 |
| 1 | 10:00-10:30(30分) | イントロダクション・講座の狙い、システム化の観点 | 講義（貝原先生） |  |
| 2 | 10:30-11:00(30分) | 参加者自己紹介 |  |  |
| 3 | 11:00-11:30(30分) | ケース理解(ケースI（背景編）を読む) | 各自　自習 | ケースI（背景編）の配布 |
| 4 | 11:30-12:30(60分) | 昼食休憩 |  |  |
| 5 | 12:30-13:30(60分) | 現行のATOSに関するグループセッション | グループ毎討議 | 各グループにファシリテータ |
| 6 | 13:30-14:30(60分) | 現行のATOSに関するクラスディスカッション | 全体討議 | 貝原先生がリード |
|  | 14:30-14:45(15分) | 休憩 |  | ケースII(解決編）の配布 |
| ７ | 14:45-15:15(30分) | ATOSの現状（今後のATOSに対する課題提起含む） | 講義（JR東日本） |  |
| ８ | 15:15-16:15(60分) | 今後のATOSに関するグループセッション | グループ毎討議 | 各グループにファシリテータ |
| ９ | 16:15-17:15(60分) | 今後のATOSに関するクラスディスカッション | 全体討議 | 貝原先生がリード |
| 10 | 17:15-17:30(15分) | まとめ |  |  |

グループセッションは、各グループ５名、計６グループを想定

-----

教材となるケースのドキュメントについては、広く公開する予定